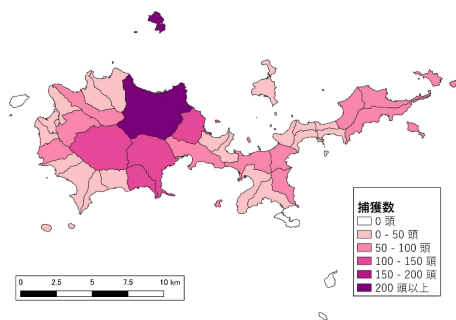


參考資料

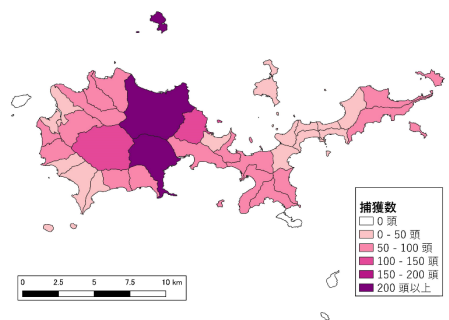
(1) 大字別の捕獲数の推移

イノシシでは、平成 29 年度から久賀で最も捕獲数が多く、西安下庄や東屋代でも多く捕獲されています。近年は、西屋代や中部の外入や東部の伊保田、油宇なども多く捕獲されるようになってきました。

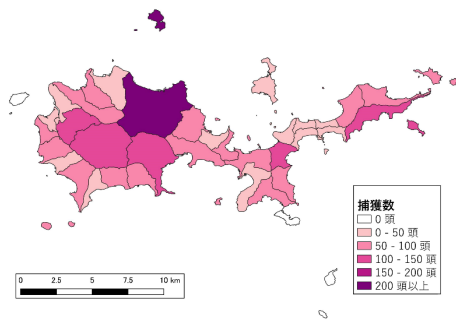
平成29年度



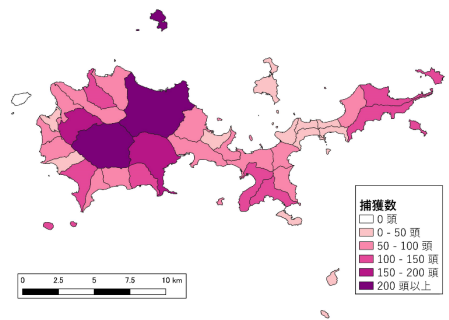
平成30年度



令和元年度



令和2年度



令和3年度

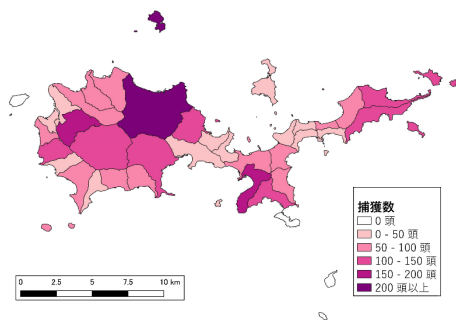
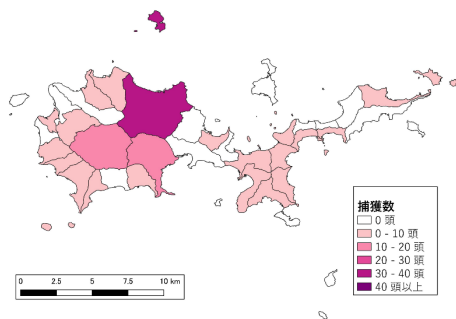


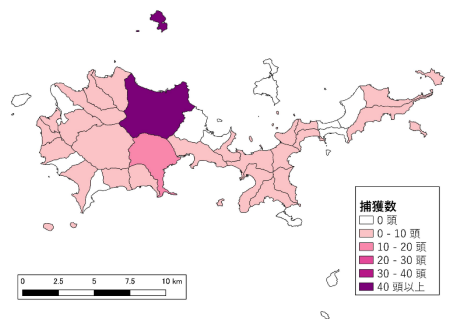
図 1-1 イノシシの年度別・大字別の捕獲数

タヌキでも、平成 29 年度には西部に位置する久賀や西安下庄、東屋代で多く捕獲されていますが、近年は中部の地家室や東部の油宇などでも多く捕獲されるようになっていきます。

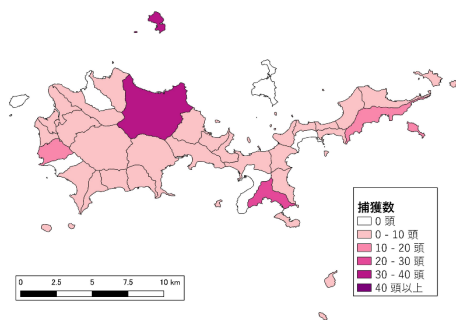
平成29年度



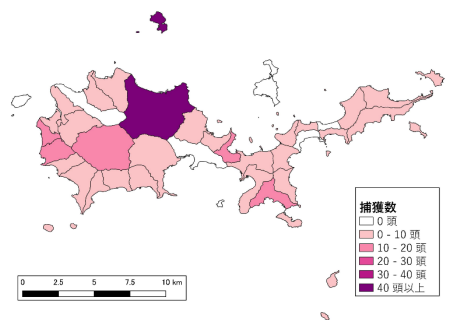
平成30年度



令和元年度



令和2年度



令和3年度

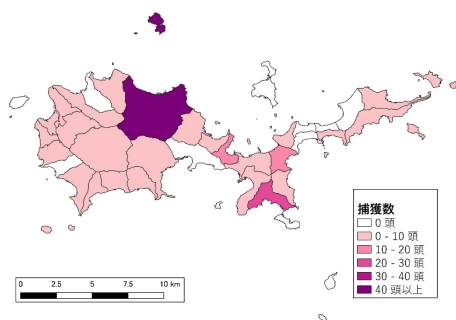
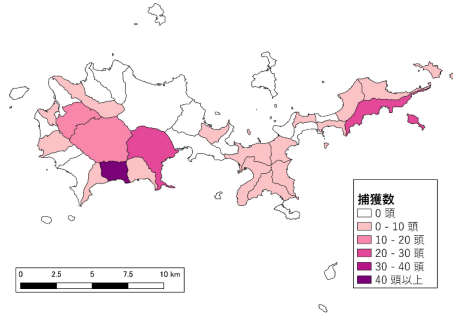


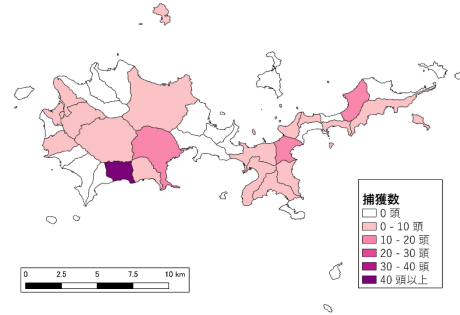
図 1-2 タヌキの年度別・大字別の捕獲数

カラスでは、平成 29 年度には家房の捕獲数が最も多かったですが、年々捕獲数は減少しており、令和 3 年度には捕獲数が 0 羽となりました。近年は、西安下庄でよく捕獲されています。

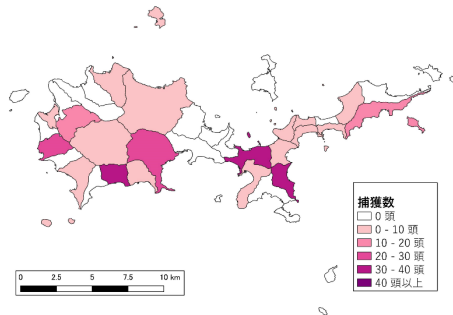
平成29年度



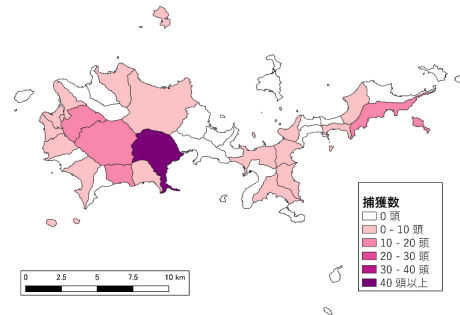
平成30年度



令和元年度



令和2年度



令和3年度

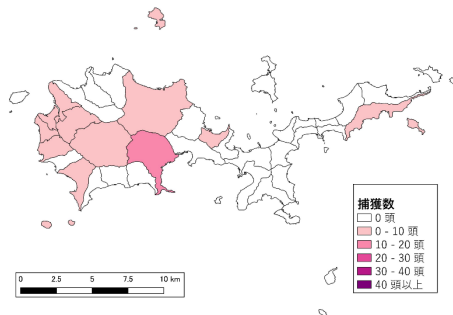
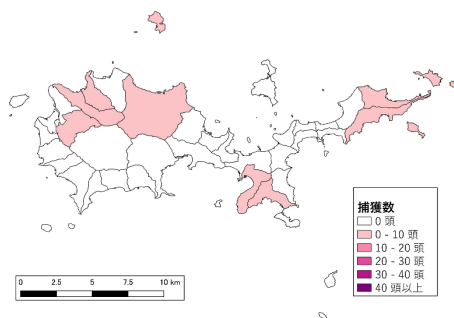


図 1-3 カラスの年度別・大字別の捕獲数

アナグマは、捕獲実績のある大字が限定されており、令和2年度には西三蒲、西屋代、東三蒲、久賀、伊保田、地家室、外入、油宇の8地区、令和3年度には東屋代、久賀、伊保田、神浦、地家室、外入、平野、油宇、和佐の9地区で捕獲されています。

令和2年度



令和3年度

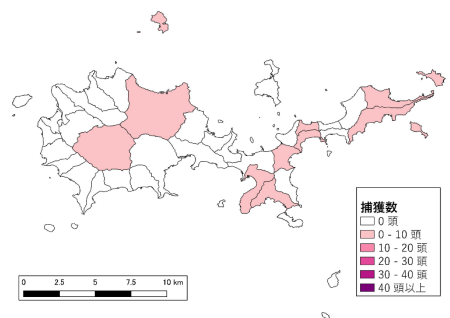
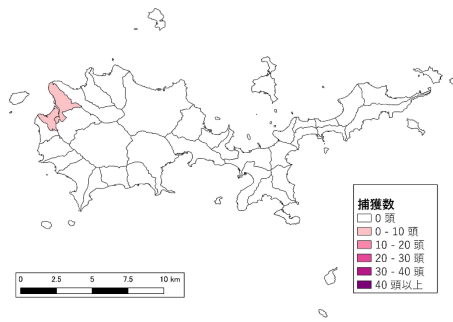


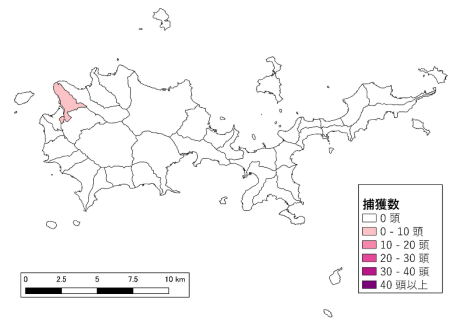
図1-4 アナグマの年度別・大字別の捕獲数

ヌートリアも捕獲が実施されている大字は限定的であり、平成 29 年度には小松及び小松開作、平成 30 年度及び令和元年度には小松のみ、令和 2 年度には出井及び小松で捕獲されています。令和 3 年度は、いずれの地区でも捕獲はありませんでした。

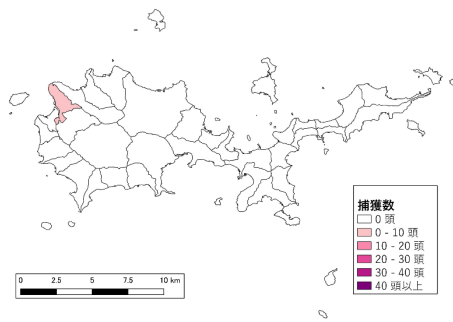
平成29年度



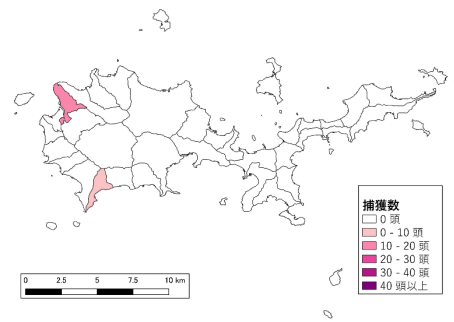
平成30年度



令和元年度



令和2年度



令和3年度

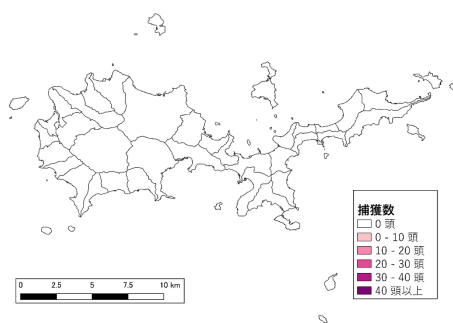


図 1-5 ヌートリアの年度別・大字別の捕獲数

(2) 鳥獣害に対する地域住民の意識

鳥獣害に対する地域住民の意識を把握するため、令和4年11月21日から11月30日にかけて、周防大島町内の自治会長に対し、各行政区における鳥獣による被害状況についてアンケート調査（以下、「アンケート」という。）を行いました。アンケート調査は、橘地区29名、大島地区110名、久賀地区47名、東和地区22名の計208名を対象とし、計147名（70.7%）から回答が得られました。

アンケートで対象とした鳥獣は、イノシシ、タヌキ、カラス、ヒヨドリ、サル、アナグマ、ヌートリアの7鳥獣です。

① 各獣種の生息状況

アンケート調査の対象とした7獣種について、各行政区に対して生息状況を尋ねました。イノシシ、カラスは90.0%以上の行政区において生息していると回答があり、ついでヒヨドリ、タヌキが生息している行政区が多かったです。一方、アナグマ、サル、ヌートリアは生息している行政区は限定的でした。

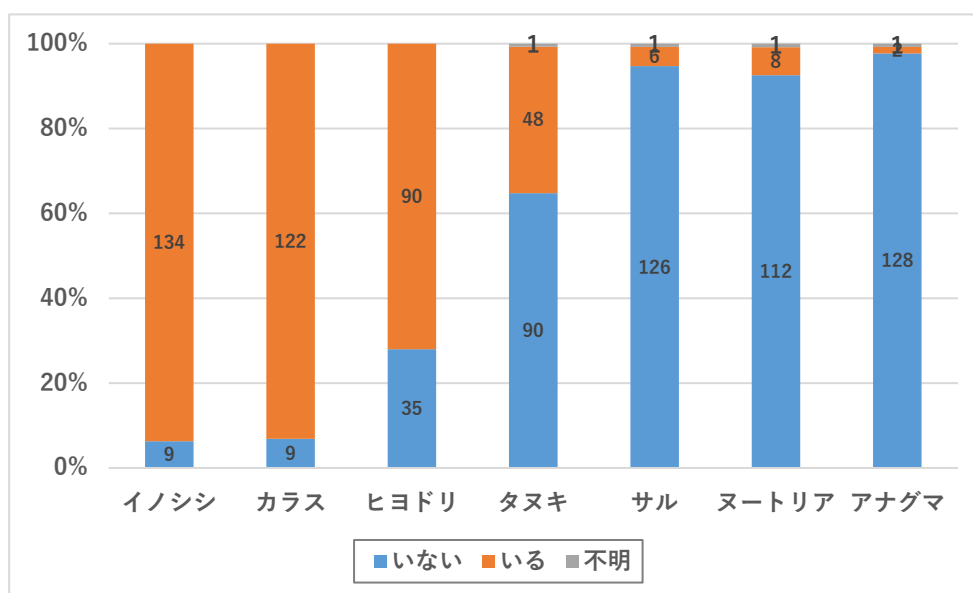


図 2-1 7 獣種の生息有無

② 各獣種による農業被害の発生状況

7 獣種による令和4年度の農業被害の程度を、まったくない・ほとんどない・軽微・大きい・深刻の5段階で尋ねました。その結果、最も農業被害を引き起こしているのはイノシシであり、被害がある（深刻、大きい、軽微）と回答した割合は、69.0%でした。ついでカラス、ヒヨドリによる被害程度が大きく、被害があると回答した割合は、それぞれ57.0%、59.0%でした。①のアンケート結果で生息が限定的であったアナグマ、サル、ヌートリアでは、すべての回答がほとんど

どない、またはまったくないであり、農業被害を受けている実感はほとんど見られませんでした。

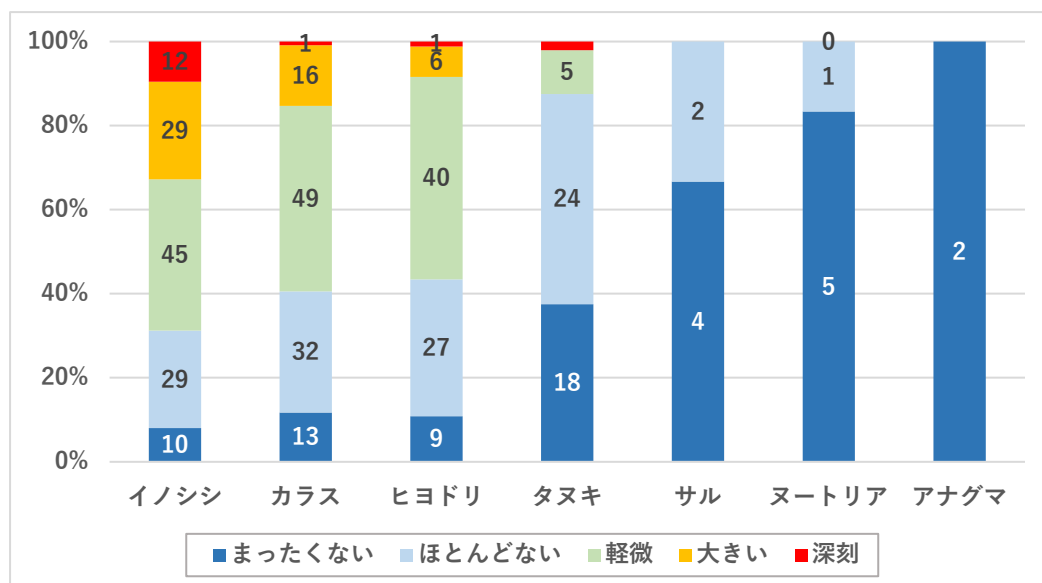


図 2-2 7獣種による令和4年度の農業被害の程度

③ 各獣種による被害の変化

7 獣種による 2～3 年以内の農業被害の変化を、なくなった・減った・変わらない・増えたの 4 段階で尋ねました。最も被害が増えていると回答があったのはイノシシであり、25.6%が増えたと回答しました。一方、減った、またはなくなったと回答した方も 30.4%いました。最も被害が減っているのはタヌキであり、71.7%が減った、またはなくなったと回答しました。これは、町で把握している被害額の変化と一致しています。

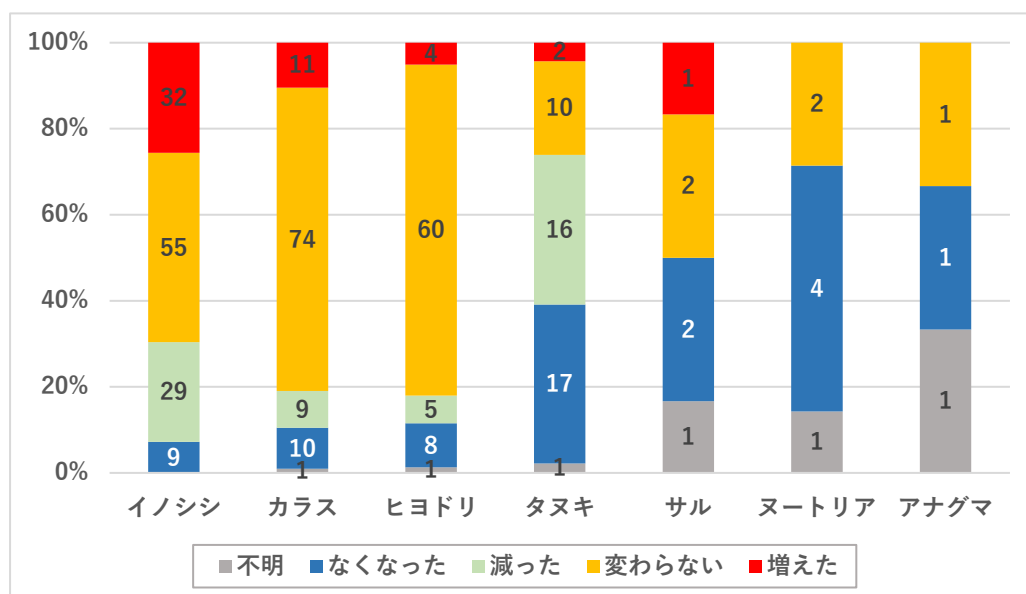


図 2-3 7獣種による被害の変化

④ 地区別の被害状況

農地・集落周辺での目撃頻度、令和4年度の農業被害の程度、2～3年以内での農業被害の変化について、周防大島町全体の状況を把握できるよう地図を作成しました。

ア. イノシシ

イノシシは周防大島町全域に広く分布しており、目撃頻度も「よく見る」「たまに見る」という回答がほとんどでした。特に東和地区の東部では、ほとんどの地域で「よく見る」という回答が得られました。

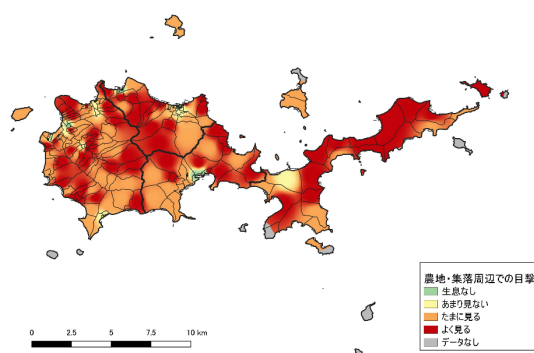


図 2-4 行政区別のイノシシ目撃頻度

農業被害は、町の東部および中部で「深刻」または「大きい」という回答が多い傾向にありました。特に、東和地区の和田・小伊保田・伊保田・小泊付近では、農業被害が大きく、2～3年以内の農業被害が「増えた」という回答が得られました。

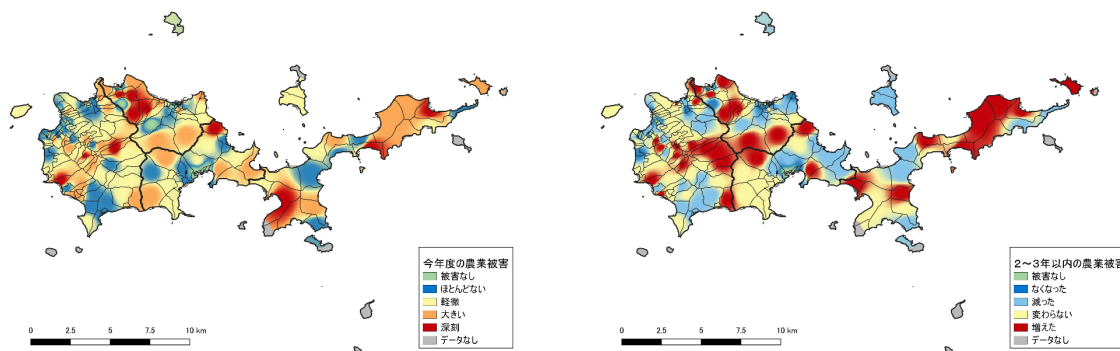


図 2-5 行政区別のイノシシの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

イ. タヌキ

タヌキは、生息していないという回答が多く、生息している地域のうち「よく見る」と回答があったのは久賀地区の大元、東和地区の情のみでした。

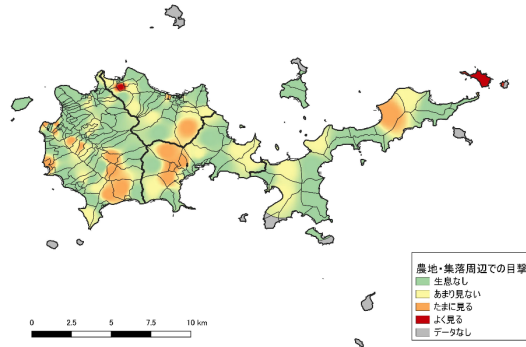


図 2-6 行政区別のタヌキ目撃頻度

農業被害についても、「ない」「ほとんどない」という回答がほとんどであり、2～3年以内の被害も「なくなった」と回答する区が多い傾向にありました。久賀地区の大元では、被害が増えており深刻な被害が発生しているという回答が得られました。

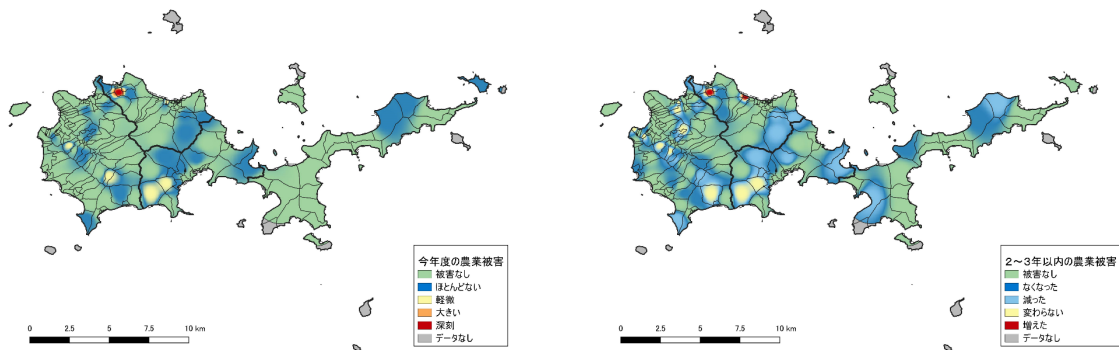


図 2-7 行政区別のタヌキの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

ウ. カラス

カラスは周防大島町全域に広く生息しており、ほとんどの地域で「よく見る」という回答が得られました。

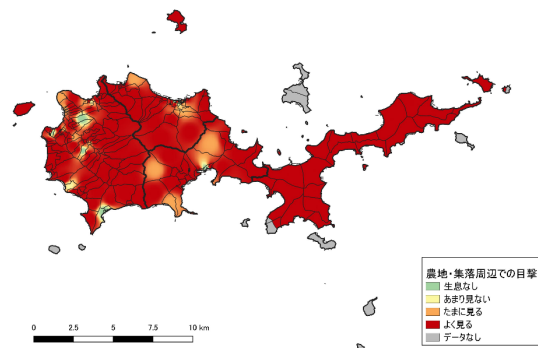


図 2-8 行政区別のカラス目撃頻度

農業被害は、大島地区の西畑で「深刻」という回答が得られました。また2～3年以内の農業被害が増えたという回答した集落も11区あり、大島地区の大東、先小田、自光寺、上片山、石原、久賀地区の前島、八幡下、橘地区の庄南、秋、安下、東和地区の和田で被害が増えているという実感が得られました。

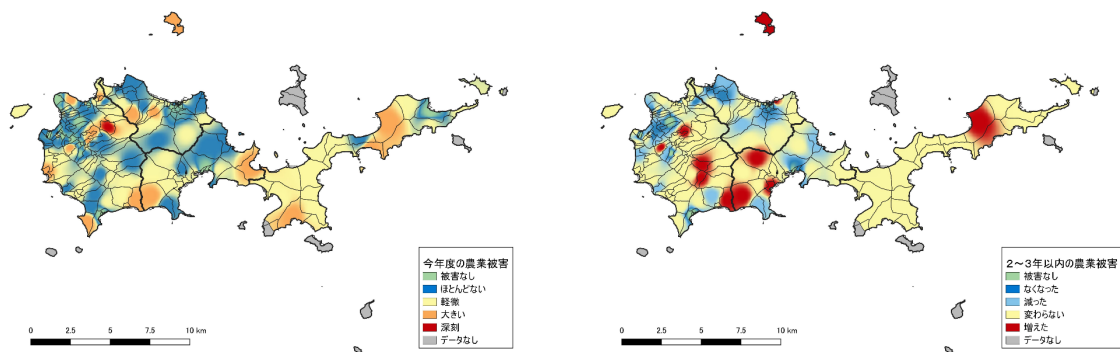


図 2-9 行政区別のカラスの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

エ. ヒヨドリ

ヒヨドリも周防大島町全域に広く生息しており、特に東和地区の東部では「よく見る」という回答が多く得られました。

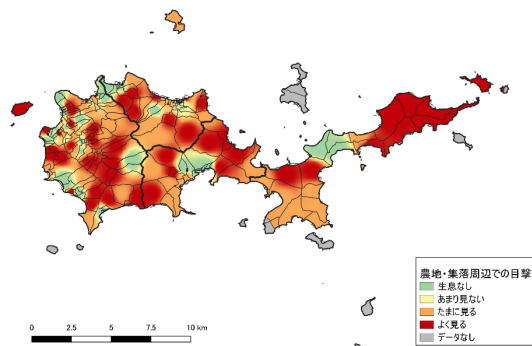


図 2-10 行政区別のヒヨドリ目撃頻度

農業被害は、「軽微」または「ほとんどない」という回答する区が多かったですが、大島地区の西浜及び大東、久賀地区の平原大畑及び前島では、被害が増えており深刻又は大きな被害が発生しているという回答が得られました。

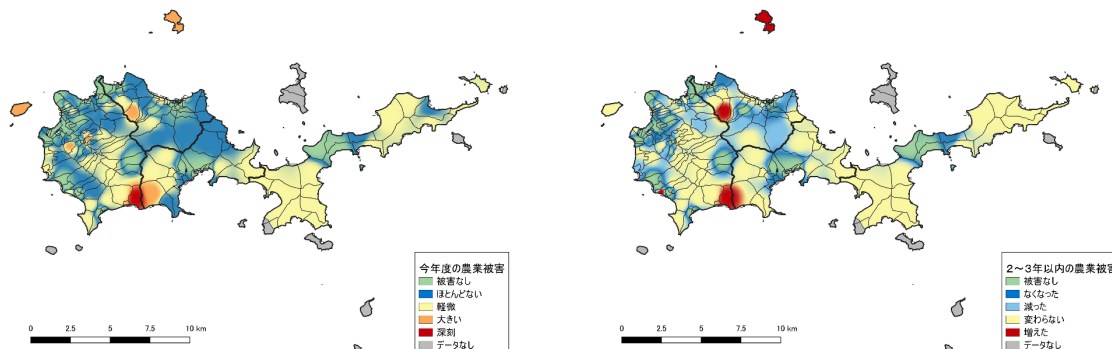


図 2-11 行政区別のヒヨドリの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

オ.サル

サルは生息していないという区が多く、「よく見る」と回答があったのは東和地区の情のみでした。大島地区の上砂田、下砂田、徳神、自光寺及び久賀地区の山下浜東1区でも目撃情報が得られました。

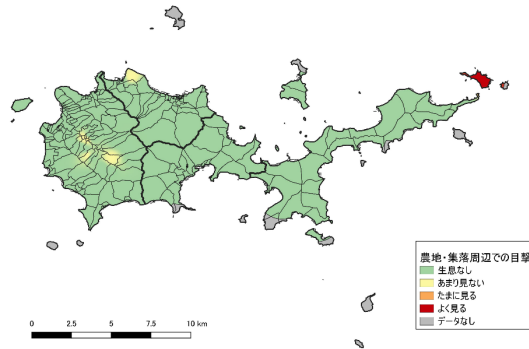


図 2-12 行政区別のサル目撃頻度

農業被害についても、「ない」「ほとんどない」という回答がほとんどでしたが、久賀地区の山下浜東1区では被害が「増えた」という回答が得られました。

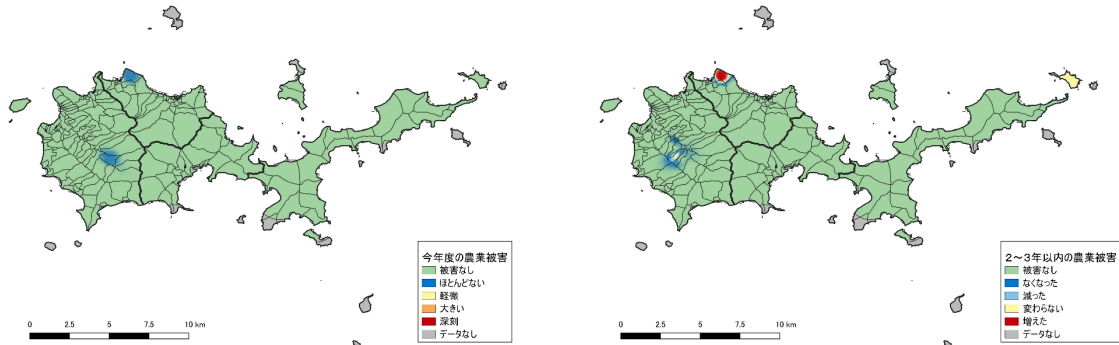


図 2-13 行政区別のサルの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

カ. アナグマ

アナグマは、生息していないという回答が多く、目撃情報が得られたのは大島地区の自光寺及び流西のみでした。

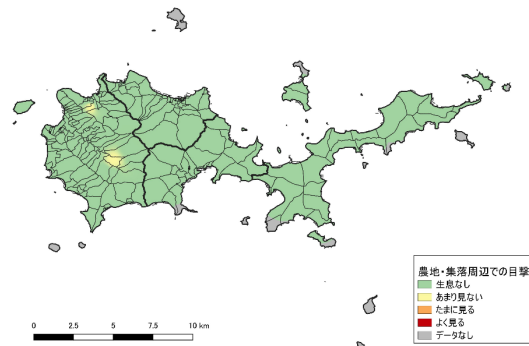


図 2-14 行政区別のアナグマ目撃頻度

農業被害についても、いずれの地区でも「ない」という回答が得られました。

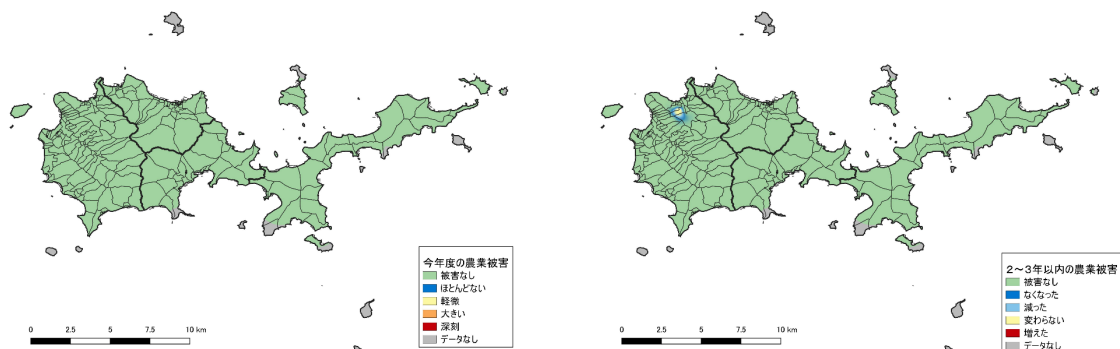


図 2-15 行政区別のアナグマの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

キ. ヌートリア

ヌートリアは、生息していないという回答が多く、生息している地域のうち「たまに見る」と回答があったのは大島地区の東北迫及び自光寺のみでした。

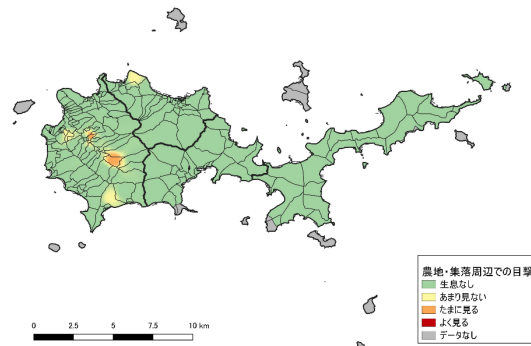


図 2-16 行政区別のヌートリア目撃頻度

農業被害についても、「ない」「ほとんどない」という回答がほとんどでした。

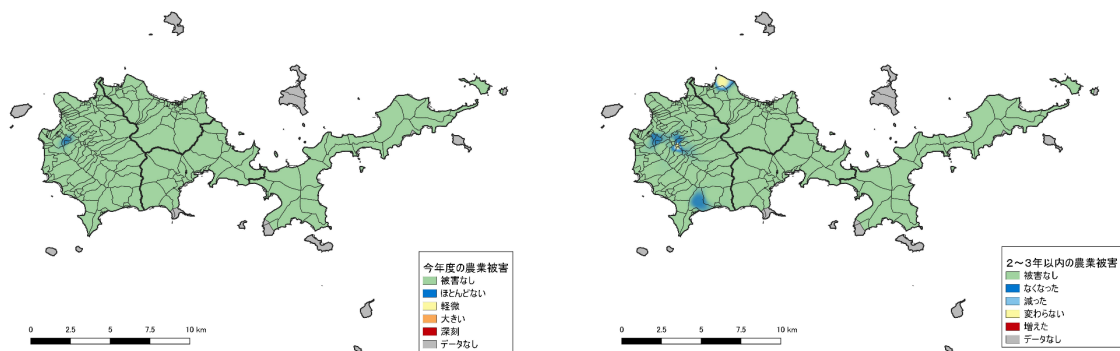


図 2-17 行政区別のヌートリアの農業被害程度（左）及び被害の変化（右）

⑤ 被害の程度と対策の実施状況

農業被害で「深刻」な被害が発生していると回答があったイノシシ、タヌキ、カラス、ヒヨドリの4獣種について、被害の程度と対策の実施状況の関係を整理しました。なお、ヒヨドリは捕獲対策を実施していないため、捕獲対策の実施状況からは除外しました。

ア. 防護柵の設置状況

【イノシシ】

イノシシによる被害が「深刻」及び「大きい」と回答した区では、すべての区で防護柵を設置していると回答がありました。被害が「軽微」「ほとんどない」と回答した区でも、8割以上の区で防護柵を設置していました。被害が「まったくない」と回答があった区でも、5割弱で防護柵が設置されていました。

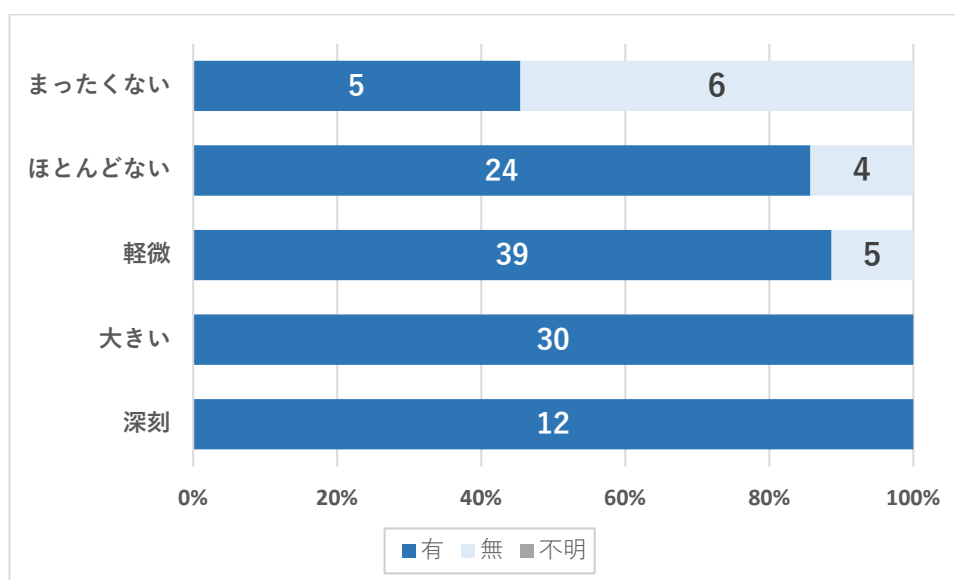


図 2-18 令和4年度のイノシシによる被害程度と防護柵の設置状況

【タヌキ】

タヌキによる被害が「深刻」と回答した1区では、防護柵を設置していました。「軽微」「ほとんどない」「まったくない」と回答した区でも半数近くの区で防護柵が設置されていました。

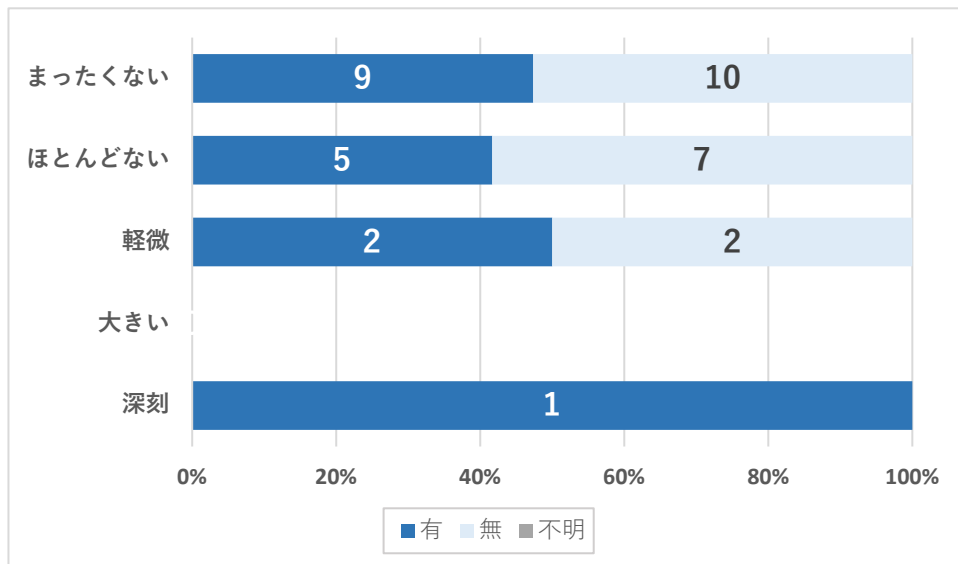


図 2-19 令和4年度のタヌキによる被害程度と防護柵の設置状況

【カラス】

カラスによる被害が「深刻」と回答した1区では、防護柵を設置していませんでした。被害が「大きい」と回答した区では約4割が防護柵を設置しており、被害が「軽微」「ほとんどない」と回答した区では、防護柵を設置しているのは2割以下でした。「まったくない」と回答した区では、約4割の区で防護柵が設置されていました。

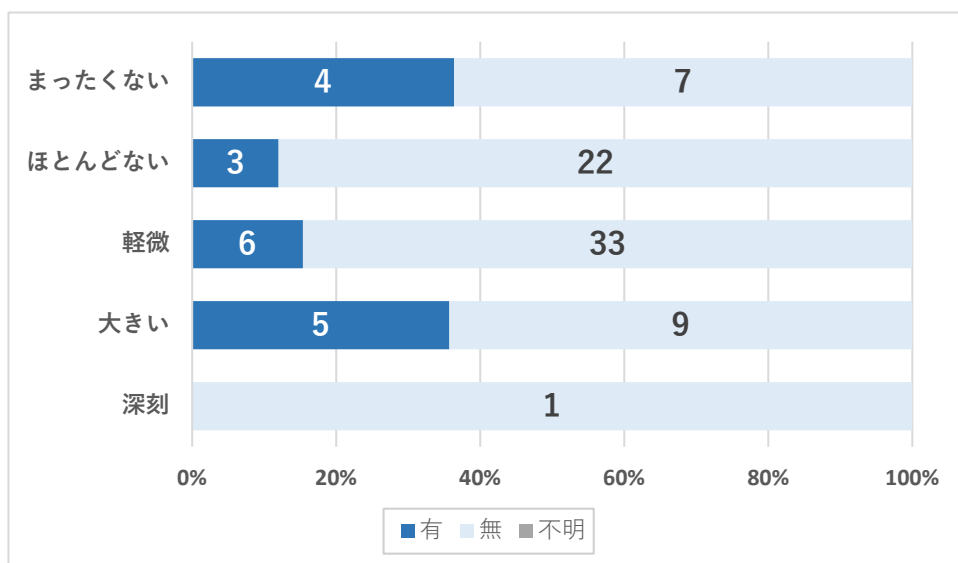


図 2-20 令和4年度のカラスによる被害程度と防護柵の設置状況

【ヒヨドリ】

ヒヨドリによる被害が「深刻」と回答した1区では、防護柵を設置していませんでした。被害が「大きい」「軽微」と回答した区では約2割が防護柵を設置しており、被害が「ほとんどない」と回答した区では、防護柵を設置しているのは1割以下でした。「まったくない」と回答した区では、約2割の区で防護柵が設置されていました。

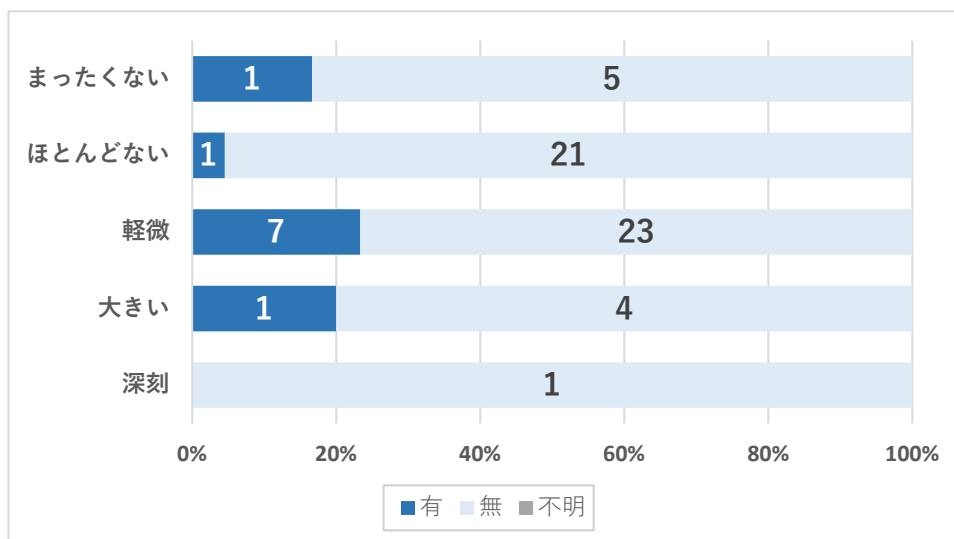


図 2-21 令和4年度のヒヨドリによる被害程度と防護柵の設置状況

イ. 捕獲の実施状況

【イノシシ】

イノシシによる被害が「深刻」及び「大きい」と回答した区では、6割以上の区で捕獲を実施していると回答がありました。被害が「軽微」と回答した区では約5割が、「ほとんどない」と回答した区でも6割以上の区で捕獲を実施していました。被害が「まったくない」と回答した区では、捕獲の実施は確認されませんでした。

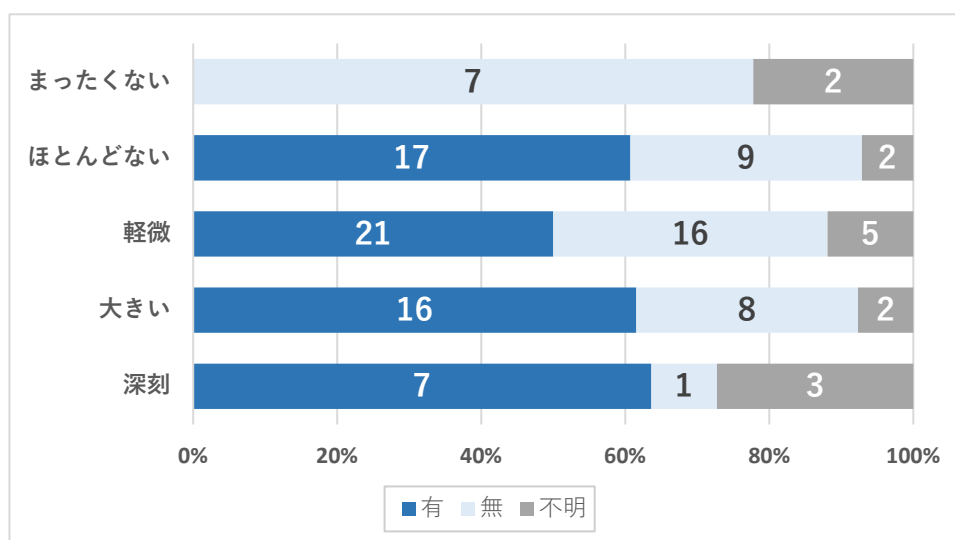


図 2-22 令和4年度のイノシシによる被害程度と捕獲の実施状況

【タヌキ】

タヌキによる被害が「深刻」と回答した1区では、捕獲の実施は確認できませんでした。被害が「軽微」と回答した区では約7割が捕獲を実施していました。被害が「ほとんどない」と回答した区では約1割が、「まったくない」と回答した区でも約2割の区で捕獲が実施されていました。

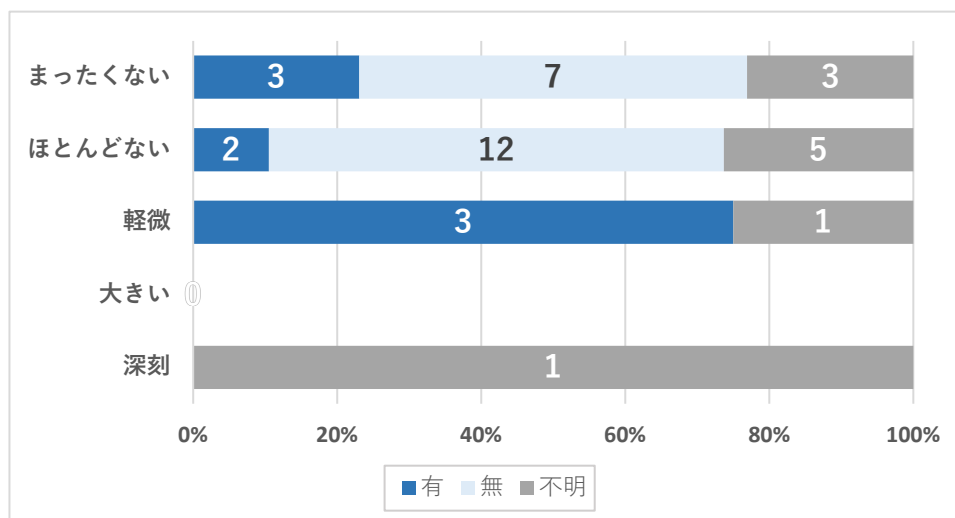


図 2-23 令和4年度のタヌキによる被害程度と捕獲の実施状況

【カラス】

カラスでは、捕獲を実施していない、又は状況が不明という回答がほとんどでした。捕獲を実施している区は、被害が「大きい」と回答した区及び「ほとんどない」と回答した区で1区ずつ見られました。

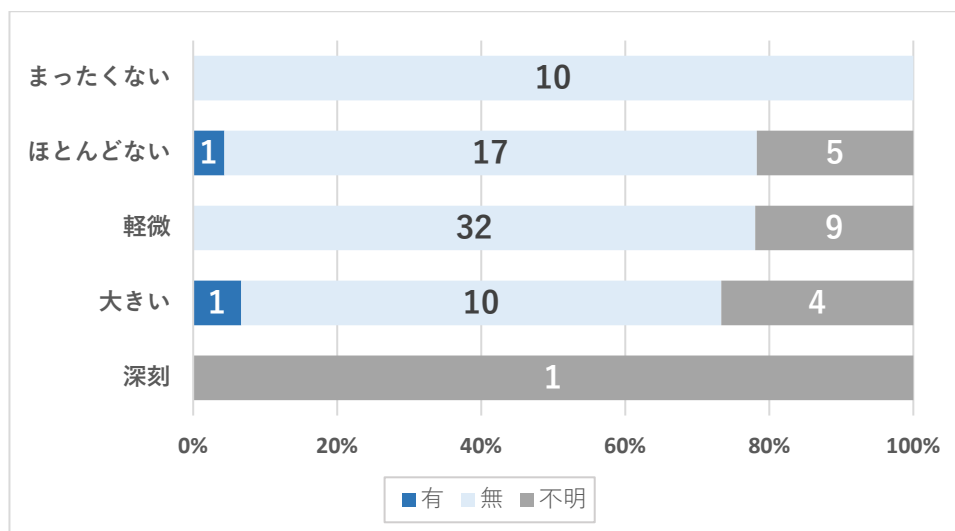


図 2-24 令和4年度のカラスによる被害程度と捕獲の実施状況

⑥ 対策の効果

対策を実施している区において、各獣種に対する被害軽減の効果を整理しました。

ア. 防護柵の効果

防護柵を設置しているという回答が得られたイノシシ、カラス、ヒヨドリ、タヌキ、サルについて、被害軽減効果の有無を整理しました。イノシシでは、効果があると回答した割合（81.6%）が多く、ヒヨドリでも効果があるという回答が多く得られました（66.7%）。カラスやタヌキ、サルでは、効果が「不明」と回答した区が半数近く見られました。

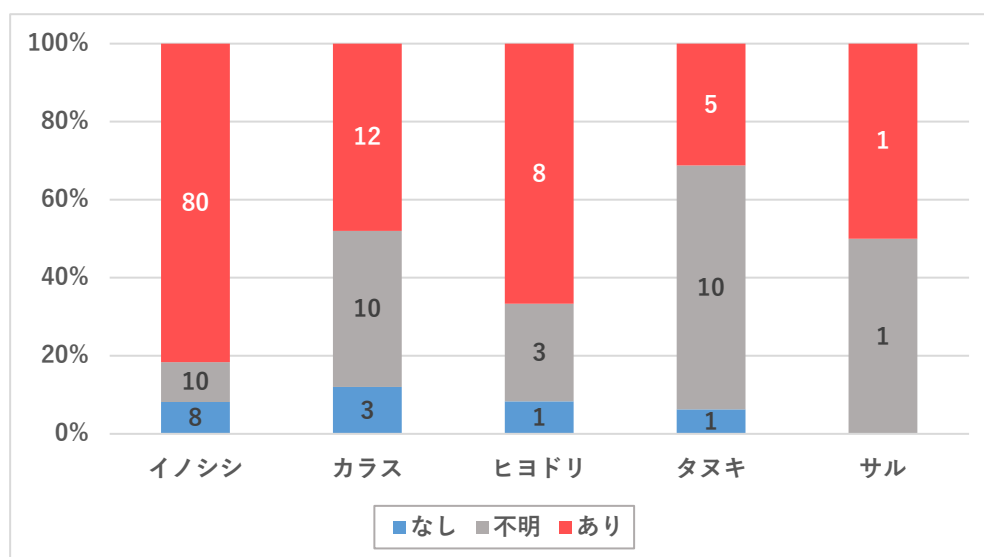


図 2-25 5獣種における防護柵の効果の有無

イ. 捕獲の効果

捕獲を実施しているという回答が得られたイノシシ、カラス、タヌキ、サル、ヌートリア、アナグマについて、被害軽減効果の有無を整理しました。イノシシでは、半数以上（54.5%）は効果があると回答した一方、効果がないと回答した区も 21.2%ありました。その他獣種では不明という回答が多く見られました。

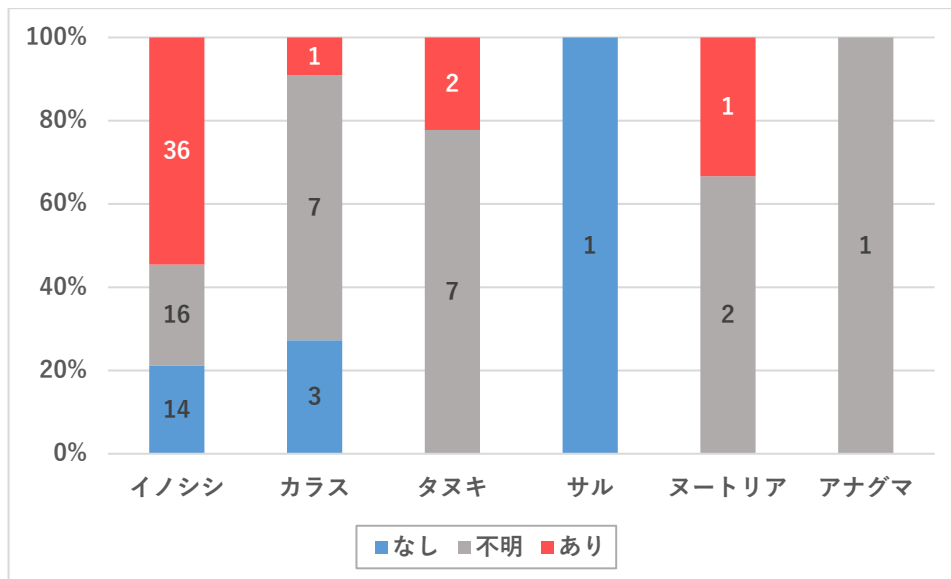


図 2-26 6獣種における捕獲の効果の有無

(3) 参考文献

- 山口県ホームページ鳥獣被害防止対策コーナー
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/101/22161.html>